



新年あけましておめでとうございます。
昨年中は格別のお引き立てを賜り心よりお礼申し上げます。
本年も何卒よろしくお願ひ申し上げます。



～ロボットテクノロジーフォーラム2020報告～ ロボット導入のすそ野を広げる

当機構が主催し、日本大学工学部工学研究所が共催した「ロボットテクノロジーフォーラム」は、令和2年12月7日（月）にWEB形式により開かれました。

「ロボット導入のすそ野を広げる」をテーマに、約40人がWEB参加し、産学のそれぞれの見地からロボット導入に関する話題提供を行いました。

フォーラムでは、コーディネーターである日本大学工学部機械工学科の武藤伸洋教授の挨拶と「少子高齢化・アフターコロナ時代のロボット技術」をテーマに少子高齢化、コロナ禍において、期待されるロボットについて話題提供をいただきました。

次に、株式会社エフ・エー・アネックス代表取締役社長の松枝芳典氏から、「ロボット活用によるモノづくり革新」をテーマにロボット導入の実例などを交えながら、事業者が行っている新たな取り組みなどをご説明いただきました。今後の更にロボットの重要性を認識する講演でした。



武藤教授講演



松枝社長の講演

(WEB配信会場)

令和2年度 第2回技術等審査委員会の審査結果 研究開発助成事業として1件を採択

令和2年11月1日～11月30日の公募期間に応募があった助成事業について、去る12月23日に郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンターにおいて技術等審査委員会が開かれ、厳正な審査の結果、研究開発助成事業として1件が採択されました。

今月号では、採択されたテーマをご紹介します。

『IoT技術を使ったデマンドコントロールシステムの開発』 株式会社 Social Area Networks

(ソーシャルエリアネットワークス)

代表取締役：森田 高明

研究開発の目的：デマンドコントロールシステムにIoT技術（LPWA無線技術、ソーラー技術）を取り入れ、低コストなデマンドコントロールシステムを開発する。

事業実施期間：令和2年10月26日～令和3年3月26日



審査の様子

今月のコラム (技術コーディネーター 井上明博)



先月号からの続き【現場力の向上】について掲載致します。今回は『**現場力を高めるために**』どうあるべきかを考えます。(参照：日経ビジネス2019.10.21より)

基本に立ち返り、変化に合わせた技術伝承を

日本の現場が大事にしていた5S(整理、整頓、清掃、清潔、しつけ)を学びながら、現場力を高め、ボトム・アップで日々新しい改善策を生み出し、現場力を磨いて来ました。かつて、当たり前のように取り組んで来た手法に立ち返り、改めて基本の5Sを見つめ直すことも必要。共通の目標を掲げ、現場が自ら考え適切な行動を取ることが出来るようになれば、必ず現場力は向上するでしょう。

また、現場力を維持するには、時代に合わせた変化も必要になります。例えば、ロボット、自動機械などを活用して生産効率を向上させる手法の導入。そして、IoTやAIなどへの対応が求められ、変化に合わせて技術伝承も見直す必要があるでしょう。技術力再生には、現場の生産性を高め、人材の育成・確保が不可欠であると考えます。

事例 ①組み立てられた製品に不備がないかをチェックする自動検査装置(オムロン)

②現場へのIoT導入で電力など制御システムのリードタイムを半減(日立製作所)

③製造現場のデジタル化、RFID(無線ICタグ)を活用し、工程ごとの進捗状況が細かく見える化され、周囲に配置したカメラが作業状況を映像。ボトルネックの工程を詳細に分析できる。

「見える化」したことで現場の責任者に最適な人員配置を促す仕組み。(日立製作所)

「現場力」は日々の改善活動によって磨かれ、改善は経営の根幹である。現場力を左右するのも「人」であり、「技術と人で現場力を高めていく」ことに尽きると言えるでしょう。

